

日本薬学会

第8回全国学生ワークショップ

「6年制薬学教育に望むこと、卒業後に取り組んで
いきたいこと ～将来への想いを共有しよう～」

報告書

2019年2月



第8回全国学生ワークショップ参加者



日本薬学会 奥 直人 会頭 挨拶



日本薬学会 平井 みどり 薬学教育委員長 挨拶



文部科学省高等教育局医学教育課 福島 哉史 薬学教育専門官 挨拶

目次

	ページ
第8回全国学生ワークショップの概要	1
プログラム	2
ワークショップの参加者および班分け	4
ワークショップ開催の経緯について	5
セッション報告	7
第一部「私たちの歩み：過去、現在、そして未来」	8
作業説明	9
グループ報告	12
第二部「6年制薬学教育を通して、満足したこと、 もっと伸ばしたかったこと、やり残したこと」	32
セッションⅠ「6年間の薬学教育の中で身についたこと」	32
作業説明	33
グループ報告	35
セッションⅡ「6年間の薬学教育の中ではできなかったこと」	64
作業説明	65
グループ報告	67
教育講演1「今、私が取り組んでいること、そして夢」	87
第三部「10年後の薬剤師の姿について考えてみよう」	94
作業説明	95
グループ報告	97
教育講演2「今後の薬剤師に求められること、期待されること」	116
参加者印象記	122
卒業生印象記	149
参加者アンケート結果	155
薬剤師として求められる基本的な資質に 関するアンケート結果	178
第8回全国学生ワークショップ実行委員	183

第8回全国学生ワークショップの概要

日本薬学会は、平成23年（2011年）に全国の薬系大学・薬学部6年次生による「第1回全国学生ワークショップ」を開催しました。このワークショップは、平成18年から始まった6年制薬学教育課程の第1期生が最終学年を迎えることから、学習の主体である学習者から薬学教育に対するフィードバックを得ることを目的としたもので、「6年制一期生として薬学教育に望むこと」をテーマに開催されました。以降、第2回～第7回までは、下記のようなテーマで毎年開催されてきました。

第2回：「6年制薬学教育に望むこと、卒業後に取り組んでいきたいこと」

第3回：「医療への貢献、社会への貢献：これから薬剤師としてどのように行動するか」

第4回：「私たちが築く新しい医療と社会：将来への思いを共有しよう」

第5回：「私たちのプロフェッショナルリズム、私たちが築く新しい医療と社会」

第6回：「社会が私たちに求めているものは何か？～未来を支える薬剤師としてのプロフェッショナルリズムを考える～」

第7回：「医療そして社会への貢献～私たちの未来を語ろう～」

開催テーマから分かるように、第3回～第7回のワークショップは、学生からのフィードバックを得ることだけでなく、「プロフェッショナルリズム」や「これから薬剤師としてどのように社会に貢献していくべきなのか？」を議論する場としての役割も果たすようになっていきました。

第8回学生ワークショップは、平成27年度から始まった改訂モデルコアカリキュラムによる教育を受けた学生が4年次まで進級してきていることを踏まえて、平成18年に開始されたモデルコアカリキュラムによる教育を総決算し、次の世代の教育に反映させるために、学生ワークショップの原点に回帰して「学習の主体である学習者から薬学教育に対するフィードバックを得る」ことを目的に開催することにしました。このためテーマも、「6年制薬学教育に望むこと、卒業後に取り組んでいきたいこと ～将来への想いを共有しよう～」としました。

今回、参加してくれた学生の皆さんには、ワークショップの冒頭に次のことを伝えました。

- (1) 6年制薬学教育のPDCAサイクルを回し、より質の高い教育を構築していくためには、学習者の視点からのフィードバックが必要である。
- (2) 学生ワークショップでは、第1回から一貫して、卒業後の進路に関わらず6年制薬学教育課程を修了した人全員を「ALL薬剤師」として考えている。
- (3) ワークショップでは、大学を背負わない個人の考えを自由に述べて欲しい。批判も歓迎するが、できれば建設的な意見に変えて発言して欲しい

本報告書は、全国から集まってくれた71名の学生が2日間真剣に議論し、作成したプロダクトをまとめたものです。参加学生の記念としてだけでなく、各大学における教育の振り返りの一助となれば望外の喜びです。

第8回全国学生ワークショップ
実行委員長 田村 豊

第8回全国学生ワークショップ

「6年制薬学教育に望むこと、卒業後に取り組んでいきたいこと

～将来への想いを共有しよう～」

主催：公益社団法人 日本薬学会

開催日時：2018年8月11日（土）10：15～12日（土）12：30

開催場所：クロス・ウェーブ 府中

〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-40 TEL:042-340-4800

参加者：大学6年次生71名 3P9S（1グループ7～8名）

：学生ワークショップ参加卒業生11名

プログラム

第1日目：8月11日（土）

9：45～ 参加者受付（3階ビジネスルーム前）

10：10 配布物の確認

10：15 開会のあいさつ

10：20 ワークショップ開催の経緯

10：30 自己紹介

第一部 「私たちの歩み：過去、現在、そして未来」

10：45 作業説明（world café）

11：05 「私がイメージしていた薬学部」

11：25 「大学生活で印象に残ったこと」絵を描く→MIPの選出と表彰

11：55 「私の夢」

12：15 昼食

第二部 「6年制薬学教育を通して、満足したこと、もっと伸ばしたかったこと、やり残したこと」

セッションⅠ 「6年間の薬学教育の中で身についたこと」

13：05 作業説明（KJ法）

13：15 小グループ討議（模造紙）

14：25 発表（5分×3班）、合同討論（15分）

14：55 休憩（コーヒーブレイク）

セッションⅡ 「6年間の薬学教育の中ではできなかったこと」

15：10 作業説明

15：20 小グループ討議

17：00 発表（5分）＋合同討論（5分）×3班

17：50 教育講演1 「今、私が取り組んでいること、そして夢」
業生3名の講演 15分×3名

18：40 1日目のアンケート

第2日目：8月12日(日)

第三部：「10年後の薬剤師の姿について考えてみよう」

8：35 作業説明

8：45 小グループ討議

10：00 発表（10分×3班）

10：30 コーヒーブレイク

10：45 教育講演2 「今後の薬剤師に求められること、期待されること」
紀平 哲也 先生

第四部「10年後の薬剤師について：薬学会会頭、文科省、厚労省との情報共有」

11：15 情報共有

12：00 閉会のあいさつ

12：05 2日目アンケート、総合評価アンケート、連絡事項

12：30 解散（昼食を食べた後、参加者帰宅）

ワークショップ参加者および班分け

I チーム

チーフ: 賀川 義之

A班	
大野 心	大阪大学
岡元 ちよみ	東京薬科大学
小山 佳祐	青森大学
佐々木 晶菜	徳島文理大学
柴野 雅仁	大阪大谷大学
武田 怜	北海道大学
戸田 真奈美	金城学院大学
中山 拓	東邦大学

タスクフォース: 高橋 寛・井上 裕文

II チーム

チーフ: 河野 武幸

A班	
阿部 耕大	東北大学
大森 照太	徳島文理大学香川
黒田 彩佳	日本大学
澤田 淳	明治薬科大学
鷹嵩 彩香	岩手医科大学
東平 佳弥	神戸学院大学
野尻 悠斗	愛知学院大学
松岡 里英	徳島大学

タスクフォース: 有田 悦子・川崎 郁勇

III チーム

チーフ: 鈴木 匡

A班	
有沢 成美	神戸薬科大学
宇野 駿也	武蔵野大学
大石 笑子	千葉科学大学
高橋 健人	東北医科薬科大学
松岡 芹佳	立命館大学
三角 知子	広島大学
三好 一希	松山大学
安田 勇貴	千葉大学

タスクフォース: 青柳 裕・大柳 賀津夫

B班	
井口 陽士	兵庫医療大学
伊知地 由依	第一薬科大学
岡田 麻依	富山大学
金子 明正	岡山大学
熊野 諒太	城西国際大学
那須 隆斗	鈴鹿医療科学大学
和知 円	奥羽大学
和山 晴香	昭和薬科大学

タスクフォース: 橋詰 勉

B班	
久保 光	金沢大学
柴田 かおり	京都薬科大学
西平 恵	福岡大学
原田 大雅	九州大学
馬籠 将	いわき明星大学
棕 里菜	武庫川女子大学
村上 智紀	帝京大学
本車田 悠希	帝京平成大学

タスクフォース: 徳山 尚吾

B班	
芦沢 夏鈴	北里大学
上田 亮太	長崎国際大学
浦山 るみ	同志社女子大学
大田 美香	国際医療福祉大学
片山 滉平	長崎大学
後藤 紀香	岐阜薬科大学
古谷 真義	姫路獨協大学
横山 佳太	横浜薬科大学

タスクフォース: 亀井 美和子

C班	
川上 宏希	福山大学
中井 絵梨	大阪薬科大学
中澤 太陽	新潟薬科大学
中村 綾菜	崇城大学
羽鳥 真由	高崎健康福祉大学
松本 恵実	静岡県立大学
村田 俊介	慶應義塾大学
吉原 勇作	熊本大学

タスクフォース: 塩田 澄子

C班	
大西 恵加	近畿大学
沖村 里咲	名古屋市立大学
上堀 正博	九州保健福祉大学
齋藤 寛之	昭和大学
高野 友輔	城西大学
船橋 智子	就実大学
松原 結	北海道医療大学
宮坂 知英	北陸大学

タスクフォース: 長谷川 洋一

C班	
磯野 櫻季花	広島国際大学
金尾 奈穂美	星薬科大学
菅野 諒太	北海道科学大学
杉浦 礼菜	名城大学
永山 なつみ	日本薬科大学
増井 翔	京都大学
山下 真希斗	摂南大学

タスクフォース: 入江 徹美

講師	
紀平 哲也	PMDA

ディレクター	
奥 直人	会頭
平井 みどり	薬学教育委員長

行政	
福島 哉史	文部科学省
光本 明日香	文部科学省
上野 俊作	文部科学省

タスクフォース	
田村 豊	福山大学薬学部
青柳 裕	金城学院大学薬学部
有田 悦子	北里大学薬学部
井上 裕文	福山大学薬学部
入江 徹美	熊本大学大学院薬学教育部
大柳 賀津夫	北陸大学薬学部
賀川 義之	静岡県立大学薬学部
亀井 美和子	日本大学薬学部
川崎 郁勇	武庫川女子大学薬学部
河野 武幸	摂南大学薬学部
塩田 澄子	就実大学薬学部
鈴木 匡	名古屋市立大学大学院薬学研究科
高橋 寛	岩手医科大学薬学部
徳山 尚吾	神戸学院大学薬学部
橋詰 勉	京都薬科大学
長谷川 洋一	名城大学薬学部

事務局	
奈良 洋	日本薬学会
寺沢 静恵	日本薬学会

卒業生	参加WS	
嶋田 光希	慶應義塾大学医学研究科	第1回
円入 智子	ウエルシア薬局株式会社	第2回
黒岩 亮平	横浜市立みなと赤十字病院薬剤部	
小嶋 崇弘	ゴリラ薬局	
志田 拓頭	浜松医科大学医学部附属病院薬剤部	第4回
北川 奈美	株式会社サエラファーマシーズ	
津倉 秀幸	浜松医科大学附属病院薬剤部	第5回
青木 雅史	Syneos Health コマーシャル事業(MR)	第6回
上嶋 仁美	岡山大学病院薬剤部	
子	病院薬剤部	第7回
石野 清亮	聖隷浜松病院薬剤部	

卒業生担当: 鈴木 匡

日本薬学会 第8回 全国学生ワークショップ

ワークショップ開催の経緯と概要

実行委員長 田村 豊

2018年8月11日、12日
クロス・ウェーブ 府中



日本薬学会第8回全国学生ワークショップ



日本薬学会は、「くすり」に関係する研究者や技術者が、学術上の情報交換を行い、学術文化の発展を目的とする学術団体です。

日本薬学会 員 職人 会 議

薬学教育委員会

- 薬学教育モデル・コアカリキュラム
- 若手薬学教育者のためのアドバンスワークショップ
- **全国学生ワークショップ**
- 医療人養成としての薬学教育に関するワークショップ

文部科学省委託事業

- 薬学教育の改善・充実に関する調査研究
- 医療人養成としての薬学教育に係る教材や教育方法の開発に関する調査研究

. たくさんの薬学教育に関する活動



2018年10月09日～8日開催予定



日本薬学会第8回全国学生ワークショップ

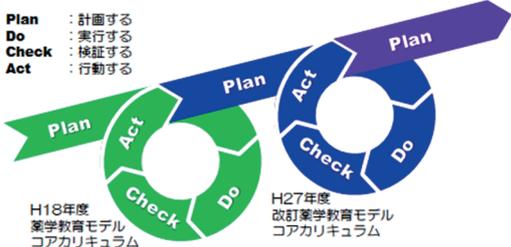
6年制薬学教育のPDCAサイクルを回したい

Plan : 計画する

Do : 実行する

Check : 検証する

Act : 行動する



H18年度
薬学教育モデル
コアカリキュラム

H27年度
改訂薬学教育モデル
コアカリキュラム



日本薬学会第8回全国学生ワークショップ

6年制薬学教育に対するフィードバックが欲しい

ただし、大学を背負う必要はありません。
個人の考えや感想で結構です。
気楽な気持ちで自由に発言して下さい。

厳しい意見や批判もありますが、できればそれを
建設的な意見に変えてもらえると嬉しいです。

6年制薬学教育卒業生（薬剤師）の
未来と一緒に考え、語ってみませんか？

ALL
薬剤師



日本薬学会第8回全国学生ワークショップ

6年制薬学教育に望むこと、 卒業後に取り組みしていきたいこと ～将来への想いを共有しよう～



日本薬学会第8回全国学生ワークショップ

ワークショップの進め方

A

タスクフォース
(Task Force)



**全体会議
Plenary Session
P**



B

小グループ討議
Small Group
Discussion
SGD

C



日本薬学会第8回全国学生ワークショップ

Small Group Discussion

発表係

記録係

報告書担当

司会進行係

大学の代表した発言をする必要はありません。個人の意見で結構です




日本薬学会第8回全国学生ワークショップ

PとSの構成 (3P9S)

P	Iチーム A班・B班・C班 (IA) (IB) (IC)
P	IIチーム A班・B班・C班 (IIA) (IIB) (IIC)
P	IIIチーム A班・B班・C班 (IIIA) (IIIB) (IIIC)



日本薬学会第8回全国学生ワークショップ



プログラム概要

11日(土)

- 10:45 第一部 「私たちの歩み：過去、現在、そして未来」
- 13:05 第二部(Ⅰ) 「6年間の薬学教育の中で身についたこと」
- 15:10 第二部(Ⅱ) 「6年間の薬学教育の中ではできなかったこと」
- 17:50 教育講演1 「今、私が取り組んでいること、そして夢」
- 19:20 情報交換会
- 23:00 終了



12日(日)

- 8:30 アンケート結果報告
- 8:35 第三部 「10年後の薬剤師の姿について考えてみよう」
- 10:45 教育講演2 「今後の薬剤師に求められること、期待されること」
- 11:15 第四部 「10年後の薬剤師について：薬学会会頭、文部科学省、厚生労働省との情報共有」
- 12:30 解散

公益社団法人
日本薬学会

日本薬学会第8回全国学生ワークショップ



ワークショップのルール

- お互いに名前を呼びましょう：OOさん、OOくん
⇒ 名札は見える位置に
- タスクフォースの大学教員も「先生」でなく「OOさん」で呼んで下さい。
- 集合時間を守りましょう。
- スマホ・携帯電話の電源は切っておきましょう。

公益社団法人
日本薬学会

日本薬学会第8回全国学生ワークショップ



では

各チーム(P)に分かれてワークショップの開幕です！



タスクフォースが誘導します。
各Pの部屋に移動してください。

公益社団法人
日本薬学会

セッション報告



第一部

「私たちの歩み：過去、現在、そして未来」

テーマ1 「私がイメージしていた薬学部」

テーマ2 「大学生活で印象に残ったこと」

テーマ3 「私の夢」



第一部 World Café

私たちの歩み：過去、現在、そして未来

日本薬学会第8回全国学生ワークショップ



World Café とは？

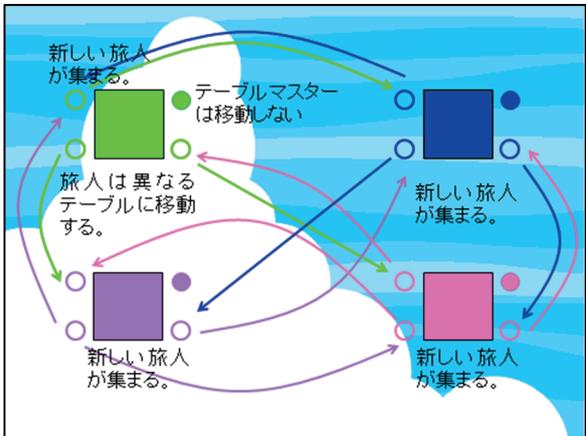
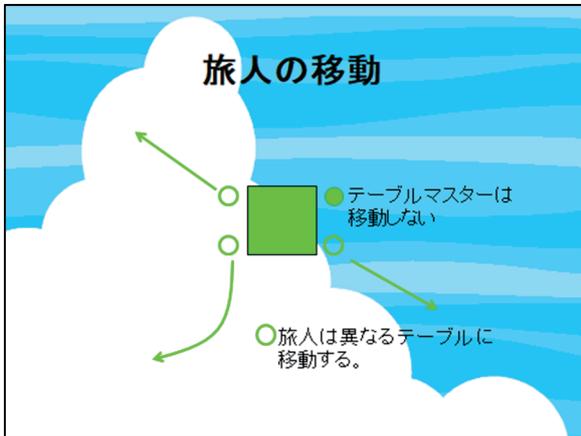
World Café はグループワークの一つのやり方です。これから皆さんは、世界を旅する「旅人」になります。

旅人は、出会った場所で「おしゃべり」や「落書き」をして、また別の場所に旅立っていきます。

今日は、旅をしながら3回のおしゃべりや落書きをしましょう。

World Café の方法

- 4名くらいのグループで「おしゃべり（ラウンド）」を行います。テーマごとにメンバーを入れ替えます。
- テーブル毎に「テーブルマスター」を決めます。テーブルマスターは固定で、司会をします。
- 1回のラウンドは20分～30分で行います。ラウンドが終わると、旅人は別のテーブルに移動します。このとき、なるべく違う旅人同士が集まるように移動しましょう。



テーブルマスターのお仕事

1. 各テーブルにおける「おしゃべり」が盛り上がるように工夫してください。
2. 第1ラウンドでは、指定されたテーマでの「おしゃべり」の司会をお願いします。
3. 第2ラウンド以降は、旅人の「自己紹介」の前に、テーブルマスターから「前のラウンド」で印象に残ったお話を1分で紹介して下さい。その後、そのラウンドのテーマの「おしゃべり」の司会をして下さい。
4. 旅人は「おしゃべり」に夢中になる傾向があります。旅人に「落書き（気付きや感想）」をするように促して下さい。
5. 第1部の報告書（概要と感想 A4 1枚）を担当して下さい。

模造紙の提出はありません。 （旅人の落書き帳です！）

落書きはたくさんあるほど楽しいです！

World Café では...

- たくさんの旅人と知り合いになれます。
- ということは、いろいろな人の話が聞けます。
- いろいろなお話し（他花受粉）によって、新しい発想が生まれます。
- でも、「声の大きい人」の旅の軌跡が分かっちゃいます。
- テーブルマスターは、ちょっと大変なので、旅人は「利他的」な行動をお願いします。
- 自由討論での発言は、1回一人1分以内をお願いします。

今日の World Café のスケジュール

移動

11:05～11:25 第1ラウンド

移動

11:25～11:55 第2ラウンド

移動

11:55～12:15 第3ラウンド

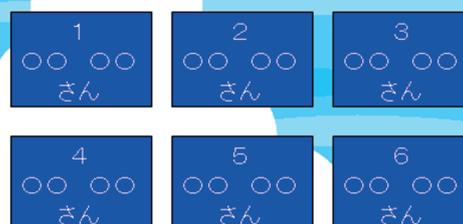
12:15 昼食(4階)

第1ラウンドのグループ編成

- 今からPのメンバーでグループを6つ作ります。
- P会場をCaféに模様替えしつつ、グループを作ります。少しだけお手伝い下さい。
- 時間の都合上、テーブルマスターはこちらで指名させていただきます。
- 旅人になった方は、各テーブルに移動して下さい。旅人の定員は2～3名です。

テーブルの位置とテーブルマスター

名簿の1番目と5番目の人



Welcome to

World Café Pharmacy



第1ラウンド

第1ラウンドのメニュー

テーマ:「私がイメージしていた薬学部」

11:05～11:25 (20分間)

- テーブルマスターは司会役をお願いします。
- 自己紹介を兼ねて、旅人は「私がイメージしていた薬学部」について紹介して下さい(1人1分程度)。
- 話しを聞きながら模造紙にできるだけたくさん落書きをして下さい。

移動です

- 旅人は、旅に出て別のテーブルに移動して下さい。
- なるべく第1ラウンドのメンバーと同じにならないように!
- 各テーブルの旅人の定員は2～3名です。テーブルマスターは人数を調整して下さい。

Welcome to

World Café Pharmacy



第2ラウンド

第2ラウンドのメニュー

テーマ:「大学生活で印象に残ったこと」

11:25～11:55 (30分間)

- テーブルマスターは司会役をお願いします。
- 第1ラウンドの話題をテーブルマスターから聞いて下さい(1分)。
- 自己紹介と第1ラウンドで印象に残ったことを話して下さい(1人1分)。
- 「大学生活で印象に残っていること」をA4用紙に絵で示して下さい(5分)。
- 絵だけをメンバーに見せて、まずはクイズ形式でメンバーに答えてもらって下さい。
- 話しを聞きながら模造紙にできるだけたくさん落書きをして下さい。

歴史に残る絵は
期待していません。



印象に残っている
場面を描いて
みましょう！

絵の中に説明
は書かなくて
結構です。

グループ名・イニシャル
(お名前)を書いて
おいてください。

移動です

- 絵を近くのタスクに渡してください。
- 旅人は、旅に出て別のテーブルに移動して下さい。
- 第1、第2ラウンドのメンバーとは、できるだけ同じにならないように！
- 各テーブルの旅人の定員は2～3名です。テーブルマスターは人数を調整して下さい。

Welcome to

World Café Pharmacy



第3ラウンド

第3ラウンドのメニュー

テーマ:「私の夢」

11:55～12:15 (20分間)

- テーブルマスターは司会役をお願いします。
- 第2ラウンドの話題をテーブルマスターから聞いて下さい(1分)。
- 自己紹介と第2ラウンドで印象に残ったことを話して下さい(1人1分)。
- 自分の夢を話して下さい。
- 話しを聞きながら模造紙にできるだけたくさん落書きをして下さい。

終了です！

- ① 4階に移動して昼食です。
- ② 13時05分までに3P会場に集合してください。

第一部では「私たちの歩み：過去、現在、そして未来」というテーマで World Café 形式で討論を行った。4名のグループで、テーマごとにメンバーを入れ替えて「ラウンド」を行った。各ラウンドでの討論について以下にまとめる。

<第1ラウンド>「私がイメージしていた薬学部」

第1ラウンドでは薬学部に入る前と入った後でのイメージの違いを中心に話し合った。

- ・薬以外の衛生や法規などの授業がたくさんある。
- ・これほどコミュニケーションスキルを大事にしており、講義で学ぶと思っていた。
- ・仕事はピッキングが中心かと思っていた。
- ・薬剤師の仕事は学校薬剤師や企業、行政など幅が広いことを知った。
- ・物理や有機化学などの基礎的なことを学ぶ機会が多く、実際に患者さんと関わるような臨床経験は少なかった。
- ・給料がもう少し良いと思っていた。
- ・薬学生は全員真面目で女性が多いイメージがあった。

第1ラウンドでは上記のような意見がでた。薬学部は薬ばかり勉強すると思っていた学生が多い傾向にあった。しかし、大学での講義のなかで、一見薬とは関係ないように見える基礎的な科目や衛生といった授業も薬剤師として働くうえで重要であると感じたという学生が多かった。入学前、薬剤師の仕事は薬局か病院そのどちらかしかないと考えていた学生が大半を占め、その仕事内容もピッキングが中心だと思っているという意見もでた。他にもコミュニケーション能力の向上を目的とした授業も想定外だったという意見もあった。

<第2ラウンド>「大学生活で印象に残ったこと」

第2ラウンドでは大学内・外かを問わず大学生活の中で最も印象に残ったことを各自 A4サイズのイラストにした。まず、班内のメンバーがそのイラストのみを見てどんな出来事かクイズ形式で答えてもらい、その後イラスト作成者が解説するという流れで進行した。

- ・授業を座席指定で行うことがあることに驚いた。
- ・外国人が授業をしていた。
- ・インドでの一人旅で価値観が変わった。
- ・天災にあうことが多く、大雨や地震が印象的だった。

第2ラウンドでは上記の意見が挙がった。大学は自由というイメージを持っていたものの座席指定の授業があることが衝撃的であったという感想がでた。その他、外国人が授業をしていたことに新鮮さを感じ、それが留学のきっかけとなったという話やインドでの一人旅をすることで現地の方との触れ合いを通じて価値観が変わったという学生もいた。また、天災により授業の延期や中止が多かったなどの感想もあった。

<第3ラウンド>「私の夢」

第3ラウンドでは自分の夢について話し合った。

- ・薬剤師として日常中の問題点について研究を行い、追求していきたい。
- ・大学院へ進学後教員となり、教科書を一行でも増やしたい。
- ・患者数が0になるような病気を根絶する薬の開発に携わりたい。

- ・実務実習であった薬剤師のような、血液内科のスペシャリストになりたい。

第3ラウンドでは上記のような話がでた。臨床現場で薬の専門家として、直接患者さんに貢献することを目指すという意見がある一方、研究者の立場あるいは臨床と研究のその両面から医療に貢献したいという意見もあった。他にも薬の開発に関わり、病気で苦しむ患者をなくしたいという意見もあり、グループ内で同じ夢をもつメンバーはいなかった。このラウンドでは薬剤師の多様性を再確認することができた。

I A班-2

第一部では「私たちの歩み：過去、現在、そして未来」というテーマで World Café 形式で討論を行った。4名のグループでラウンドごとにメンバーを入れ替え、気付きや感想を模造紙に記録した。各ラウンドの討論について以下にまとめる。

<第1ラウンド>「私がイメージしていた薬学部」

第1ラウンドでは上記のテーマで各自の思うことを自由に討論した。入学前イメージしていた薬学部は実際に薬学部に入ってからとは違ったという意見が全員に共通していた。元々のイメージとしては、白衣を着て薬を調剤する、薬について多くの授業がある、かっこいい、選択の授業が多いなど漠然としたものが多かった。また、元々のイメージがあまりないまま入学したという意見もあった。実際に入学してからは、思っていたより生物や化学などの基礎的な授業が多くあった、勉強が大変であった、必修の授業が多く自由に選べないなどイメージに変化が見られた。

以上より薬学部のイメージについては最初と比べてネガティブな変化が見られたが、全員が勉強の必要性を理解していたため、授業数が多くても不満がある様子はなかった。

<第2ラウンド>「大学生活で印象に残ったこと」

第2ラウンドでは、上記のテーマに沿って各々が絵を描き、絵の内容をクイズ形式で紹介しあう形で討論を進めた。以下のサークルや、研究室、大学内の景色、就職活動の話題となった。全学部混合と薬学部内のサークルがあり、全学部のサークルにはいることで他学部の友人もつくることができ、楽しんだ。研究室はやはりしんどいが、研究をうまく進めるために試行錯誤し、自ら考える能力がついた。どの大学にも印象深い景色があり、6年見続けたその景色は大学時代の大部分を占める。就職活動では薬剤師以外にも様々な選択肢があり、非常に悩んだ。

以上より、大学生活で印象に残ったことは様々であった。しかし、一人一人の絵を見て話を聞くとみんなにあてはまる部分も多く、薬学部あるあるのような形で和気あいあいと話ができた。

<第3ラウンド>「私の夢」

第3ラウンドでは上記のテーマで各自の思うことを自由に討論した。患者さんに名前を覚えてもらえるような薬剤師になる、薬局で幅広い処方せんに対応する、予防のために食べ物に関しても知識をつける、患者さんに薬について教育し患者さんとともに治療を進める、ドラッグラグをなくしたい、などの意見が挙げられた。

夢に関しては進路もばらばらなので様々であったが、全員が高齢化や医療費増大などの時代背景を踏まえた夢を持っており、患者さんのためという強い気持ちも共通していた。

また、実習で薬剤師の方々の姿を見て将来像が見えてきたとの意見が多かった。

総括

全体を通して、共通することも多くグループ全体が楽しんで、活発に意見を交わすことができた。特に「私の夢」について話し合う第3ラウンドでは、全員が将来像をしっかりと持っており、いい刺激を受けることができた。また、自分の夢についての質問や意見から、更に自分の夢についても考え直すきっかけとなった。全体が打ち解けることができ、有意義で楽しい時間であった。

I B 班 - 1

第一部では、「私たちの歩み：過去、現在、そして未来」というテーマで World Café 形式で全3ラウンド(各ラウンド20~30分)の討議を行った。1グループ4名(計6グループ)でラウンドごとに小テーマが与えられ、テーマに関する意見を交換し、内容・感想・気づき等を模造紙に自由に記録した。各ラウンドの討議について以下にまとめる。

第1ラウンド「私がイメージしていた薬学部」

第1ラウンドは、上記のテーマで各自が大学へ入学する前に持っていたイメージを自由に意見交換していった。

討論は

- ・メガネをかけた真面目な学生が多く、勉強が大変そう
- ・医学部をあきらめた人が行きそう
- ・勉強・バイト・サークルの両立が難しそう

という意見から始まり、当初持っていたイメージを語った。しかし、イメージとのギャップが大きかったこともあり、話の内容はイメージと違ったことやイメージになかったことへと移っていった。特に全員が賛同できたギャップとしては「大学生は科目(単位)を自分で選択していくものだと思っていたが、ほとんど必修科目で選べなかったこと」であった。このラウンドでは、他者の意見と共通する部分が多かった。

<第2ラウンド>「大学生活で印象に残ったこと」

第2ラウンドは、まず、第1ラウンドで印象に残った内容を各自1つ挙げ共有した。その後、上記のテーマで、各自が思い出を絵で表現し、なんの絵かをクイズ形式で見せ合った。絵が得意な人も苦手な人も一生懸命描いた。ラウンド前半は、絵の内容を当てることや絵の説明・内容について討論が行われ、各自の思い出を共有することで、思い出の内容に憧れを抱くこともあった。

- ・BBQの絵
- ・白衣授与式の絵
- ・大学付近で急に花火が打ち上げられ音に驚いた絵
- ・再試になってしまった友達に睨まれる絵

楽しい思い出を描く人もいれば、苦い思い出を描く人もいた。ラウンド後半は、描いた絵の内容以外にも、思い出に残っていることや大学・住んでいる所の特徴についても討論が行われた。このラウンドでは、各大学の特色や他大学との相違点を知りながら、笑いもある賑やかな討論となった。

<第3ラウンド>「私の夢」

第3ラウンドも、まず、第2ラウンドで印象に残った内容を各自1つ挙げ共有した。その後、上記のテーマで、自由に討論を行った。

- ・大学院に進み、大学の先生になり、臨床の現場で活躍できる薬剤師を育てたい。
- ・研究が好きだから研究職に就きたい。
- ・高度医療の現場で臨床を学びたい。
- ・病院で積極的に患者さんと関わりたい。

など、テーマに対し4人全員が異なる夢を挙げ、なぜその夢を抱いたのか、各自が抱く夢の魅力や経緯を語ることで、聞き手は今まで意識していなかったところを意識できた。このラウンドでは自分自身の概念にないような刺激をもらう機会となった。

総括

第一部では、ワークショップの始まりということもあり、多くの人が緊張していたがWorld Café形式を用いることで、メンバー全員が比較的速やかに打ち解けることができた。ラウンドごとにメンバーが変わっても積極的に意見を発言する人が多く、意見交換ができた。また、各大学の特徴や個人の考え、地元の話など普段聞くことのできない話が聞け、視点の違いや交流の面でもとても良い場となり有意義な時間となりました。

I B班-2

第一部では、「私たちの歩み：過去、現在、そして未来」というテーマのもと、World Café形式で全3ラウンドの討論を行った。ラウンドごとにメンバーを入れ替え、「おしゃべり」を行った中で気づきや感想を「落書き」として模造紙に記録した。各ラウンドの討論について以下にまとめる。

<第1ラウンド>「私がイメージしていた薬学部」

第1ラウンドでは、上記のテーマについて自由に討論した。学ぶべきことが多く、自由な時間がないのではというイメージを持っていたが、実際に入学してみると予想以上に時間があるという意見が印象的で、その流れから薬学教育について議論が行われた。特に2年次までの基礎科目が臨床的な知識と結びつくまでに時間がかかることが問題視された。これらの議論を通して、それぞれの大学や地方の特色が話題に上ったことで、互いのことを知ることをでき、初対面とは思えないほど活発な議論が行えたように思う。

後半は研究の話にテーマがうつり、各々の研究テーマについて語り合ううちに、各大学における研究に対するモチベーションの差が浮き彫りとなった。また偶然にも全く同じ試薬を用いて研究を行っている者がいたため、化学談義がはずみ、このWSの良さを早くも体感することができた。

<第2ラウンド>「大学生活で印象に残ったこと」

第2ラウンドでは、上記のテーマに沿って各々が絵を描き、絵の内容をクイズ形式で紹介しあう形で討論を進めた。大学生活で印象に残ったこととして、大きく分けると実務実習と研究が挙げられた。前者では、吐き気の強い抗がん剤治療を行っている患者との関わりや実習中に処方された高額な処方薬を調剤した経験が話題となった。そこから病棟におけるコミュニケーションの難しさや信頼関係を築けた時の喜び、現場における薬剤師の実際とイメージとのギャップ、保険制度の知識が不十分なままに実習に臨んだことなどに話

題が及んだ。後者では、卒業論文の発表の様子が描かれていた。そこから卒業論文に限らず、大勢の前で発表することでプレゼンテーション能力が向上すること、大学ごとの卒業論文のウエイトの違いなどに話題が及んだ。こうして振り返ってみると大学生活の後半に当たる部分が強く印象に残っており、薬学教育の中でも特に充実した時間を過ごしたことが伺えた。

第3ラウンド「私の夢」

第3ラウンドでも、上記のテーマについて自由に討論した。「パン屋併設型の薬局を立ち上げたい」、「緩和ケアに携わり、患者さんの QOL 向上に努めたい」、「実務実習指導薬剤師として後進を指導しつつ、塾も経営してみたい」、「こどものための絵本をかいてみたい」など多種多様な夢が語られた。薬剤師業務はもちろんだが、さらに踏み込んで何かしてみたいという強い意志がみられた。その実現に対して、具体的なビジョンを持っているものも多く、パンだけではなく、紅茶やアロマなどを扱う人材の確保もすでに済ませているものや、OSCE の事前学習の指導薬剤師として指導経験を積むための準備をしているものもいた。また、全ての夢が自分のためだけのものでなく、誰かのためにという考えに根付いている事は非常に興味深く感じた。

総括

どのラウンドでも誰もが言いよどむことなく、意見を述べ、それに対して全員が耳を傾けて、意見を交わすことができた。アイスブレイクとは思えないほど、活発に討論が行われており、全国の薬学生を集めるとこんなにも面白く、刺激的なことができるのかと驚きを覚えるとともに、薬学教育において重要視されているコミュニケーション能力の涵養が十分になされていることを実感できた。

I C 班 - 1

第一部では「私たちの歩み：過去、現在、そして未来」というテーマで World Café 形式で各4名のグループ、全3ラウンドの討論を行った。各ラウンドでの討議を以下にまとめる。

<第1ラウンド>「私がイメージしていた薬学部」

第1ラウンドでは自分がイメージしていた“薬学部”について発表し、模造紙に書いた。

- ・薬や病気について学ぶ学部だと思っていた。
- ・化学をメインで学ぶと思っていた。
- ・人の健康に関わるから固いイメージ。
- ・ドラマなどでよく見かける普通の大学生と同じ。
- ・国立大学は研究者、私立大学は薬剤師になるための学校。
- ・11週間も実習にいかなければならない。

“薬学部”のイメージとして、疾患とその治療薬としての“薬”を学ぶ学部であるというイメージを持っていた印象であった。実際に薬学部に入ってみたら、化学だけでなく、物理、生物といった基礎科目が多かったこと、座学が中心であったなど入学してギャップを感じた人が多いように感じた。また、薬学部について“ゆるい”というイメージを持っていた人もいれば“固い”というイメージを持っていた人もいて様々であった。しかし、共通して、入学してからが大変だった。と話していた。

<第2ラウンド>「大学生活で印象に残ったこと」

第2ラウンドでは自分の大学生活で印象に残ったことについてA4用紙に描き、その絵がどのような場面なのかクイズ形式で答えてもらった。

- ・部活動の一場面
- ・日々の学生生活の一場面（2名）
- ・企画運営に関わった際の一場面

主に学生生活で印象に残っている場面が多かった。部活動や企画運営を行う中で学んだこと、日々の学生生活の中での気づきについての話題が多かった。

<第3ラウンド>「私の夢」

第3ラウンドでは自分の夢について発表し、模造紙に書いた。

- ・レジデントとして大学病院に入り、臨床研究など様々なことに取り組んでみたい。
- ・実習でお世話になった薬剤師のようになりたい。
- ・患者さんと信頼関係を築き、名前でも呼んでもらえるような薬剤師になりたい。
- ・中小病院に就職し、地域医療に関わりたい。
- ・医療の足りていない地域で活躍する薬剤師になりたい。
- ・薬剤師国家試験の予備校講師になり、教育に関わりたい。

就職先は病院、薬局、教育関係と様々な分野に分かれていた。共通して、メンバーは自分なりの目標に向かってプランを持っていた。メンバーそれぞれが異なる進路であったことから、お互いの進路についての意見交換やどうしてそのような進路に決めたのかといった話をした。

全体を通して

グループ全体が話しやすい雰囲気作りに協力してくれたため、開始後すぐに打ち解け、活発に意見を交わすことができた。一つ的话题に対する各々の意見をグループ内で共有し、お互いに積極的に話し合うことができた。それぞれの経験の違いから、自分にはない考えに触れることができたこと、異なる視点からの意見を持った学生と、意見を交換し合うことで、自分にはない考え方を聞くことができてとても刺激を受けることができた。

I C 班 - 2

第一部では第1～第3ラウンドで3つの小テーマが与えられた。そしてそれぞれのテーマに対して World Café 形式で1テーブルにつき4人で、ラウンドごとにメンバーを入れ替えて自由に討論を行い、気づきや感想を模造紙に記録した。各ラウンドの討論内容を以下にまとめる。

<第1ラウンドのテーマ>「私がイメージしていた薬学部」

- ・6年間って長そう
- ・勉強が難しそう
- ・勉強とサークルやアルバイトなどとの両立が大変そう
- ・まじめな人が集まりそう
- ・カッコいい先輩たちに教えてもらえそう
- ・研究が楽しそう

第1ラウンドの話し合いでは上記のような意見が出た。入学前の薬学部に対するイメージで共通していた意見は「大変そう」などネガティブなものが多かったが、中には大学生活を楽しみにするようなポジティブな意見も出た。薬剤師は医療の現場で生命にかかわる職業であるため、しっかり勉強しないといけないという不安はみんな同じように感じていたようだが、同じ目標を持った人たちと大学での新しい生活に期待していたようにも思えた。

<第2ラウンドのテーマ>「大学生活で印象に残ったこと」

- ・研究室での卒業研究
- ・サークル活動

第2ラウンドでは1枚の紙に自分が大学生活で印象に残ったことを絵にかいて、クイズ形式で話し合った。その後、その他にも印象に残ったことについて話し合った。一番印象に残っている人が多かったのが、やはり研究室での研究だった。大学によって、また国立か私立かななどでも研究内容が全く異なり、様々な研究について話し合うことができ視野が広がった。

<第3ラウンドのテーマ>「私の夢」

- ・患者さんと医療スタッフの両方に頼られる病院、薬局薬剤師になる
- ・医療に役立つプログラムや認知症予防のゲームなどを作る
- ・より良い治療ができる新薬を作る

第3ラウンドでは上記のような話がでた。医療人としてのスキル向上を目標とする夢や、プログラムやシステム、新薬を作るという夢など、みんなそれぞれ薬剤師として目指す道が異なることで、いろいろな夢の形があってとても話しが弾んだ。自分の目指す就職先以外のことを知るよい機会になった。

Ⅱ A班－1

第一部では、「私たちの歩み：過去、現在、そして未来」というテーマで World Café 形式を用いて討論を行った。4名のグループでラウンドごとにメンバーを入れ替え、各ラウンドのテーマに沿った気づきや感想を模造紙に記録した。

各ラウンドでの討論内容を以下にまとめる。

<第1ラウンド>「私がイメージしていた薬学部」

- ・6年制になって臨床系の科目が初期からあると思っていたが、1、2年生のころは一般教養や基礎科目が多く、6年間を通して臨床系の科目は少なかった。
- ・薬の効き方を学ぶイメージだったが、実際はだいぶ高学年になってからだった。
- ・医学と薬学の違いを分かっていたいなかった、もっと医学的な内容を学ぶと思っていた。
- ・想像したより実習期間が短かった。

はじめのうちは一般教養や基礎科目がほとんどであり、6年制薬学部で学ぶと思っていた専門科目や臨床系の科目は高学年になってからであるという現実には、メンバー全員が予想外であったとの意見で一致した。

<第2ラウンド>「大学生活で印象に残ったこと」

- ・プレゼンテーションを行う機会が年に何度もあり、発表技術が身についた。英語でポス

- ・ターを作製し、患者役と薬剤師役に分かれて英語でロールプレイをすることもあった。
- ・献血の呼びかけや学年全体での交流会など、学生主体で企画した。献血では過去最多の人数が集まり、大成功した。
- ・実習で在宅に行き、薬剤師が在宅で患者の生活状況も確認することの重要性を感じた。
- ・学会発表とオープンキャンパスでの研究内容の説明を通して、何も知らない人に分かりやすく「1」を伝えるためには「10」のことを知っていなければならないと学んだ。

各自が大学生活で印象に残ったことを A4 用紙に絵で示し、まずはそれを他のメンバーがクイズ形式で考え、次に本人が絵を説明した。

大学生活全般や実習、研究と幅広い意見が出され、大学や実習施設の方針や特徴によって全く異なる経験をしてきたメンバーたちの話に盛り上がった。

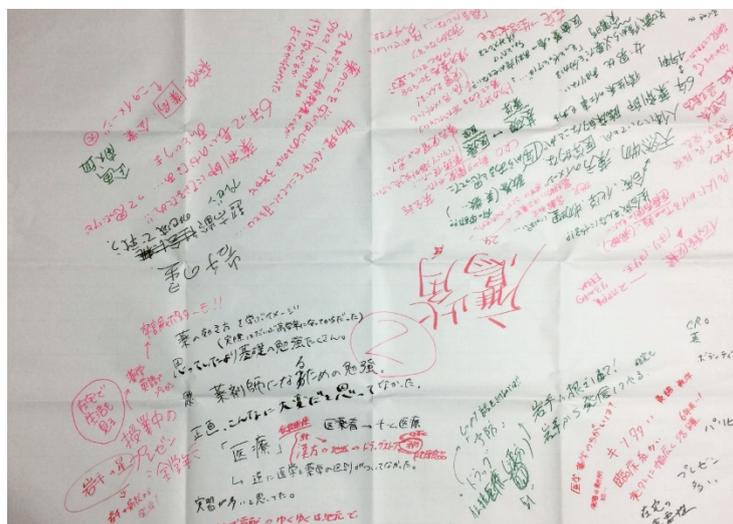
<第3ラウンド>「私の夢」

- ・CROとして新薬開発を行いたい。英語で海外交流がしたいため、英会話教室に通っている。
- ・高齢社会である地元の課題を解決するため、まずは似たモデルの薬局で勤務し、最終的には地元で働きたい。
- ・地元の病院薬剤師として地元の課題を見つけ、臨床で解決していききたい。研究して得た成果を地元から発信していききたい。
- ・薬剤師が人々に対して、最初にタッチできる場所であるドラッグストアで「病気にしない」取り組みを行いたい。

CRO、薬局薬剤師、病院薬剤師、ドラッグストアと幅広い業種が挙げられた。地元の課題を解決したいという夢を持ち、地元で根差した薬剤師になりたいという意見があった一方で、実習を通して薬剤師や医療の限界を知り、それを解決していききたいという意見も挙げられた。

総括

自己紹介を兼ねての討論であり、ラウンドの回数を重ねるにつれて自分の想いや意見がスムーズに出てきたように感じた。第1ラウンドではネガティブな意見が多く出されたが、第2ラウンドではクイズ形式で深く考えることなく楽しく開放的な討論ができ、第3ラウンドでは熱い想いを恥じることなく述べる事ができたと感じる。他大学の学生の経験や意見を聞くことで互いに刺激を受け、第二部以降の討論に良い影響を与えたのではないかと思う。



Ⅱ A班－2

第一部では「私たちの歩み：過去、現在、そして未来」というテーマで World Café 形式で討論を行った。4名1グループでメンバー（旅人）が入れ替わり、ラウンドごとに与えられたテーマに沿って話し合い（おしゃべり）をする中で、気づきや感想をテーブル上の模造紙に自由に記録（らくがき）した。各ラウンドについて以下にまとめる。

<第1ラウンド>「私がイメージしていた薬学部」

高校時代などの大学入学前に抱いていた薬学部に対するイメージを思い返し、率直に意見を出しあった。

- ・大学では自由な時間がたくさんあり、自分のやりたいことができると思っていた
- ・化学や数学が好きな人たちが集まると思っていた
- ・国家資格が欲しい人が来ると思っていた
- ・医学部を目指していたが..という人も多く来ると思っていた

上記のような意見が出されたが、多くは「入学してみたらイメージと違っていた」というものだった。そのギャップの例としては、勉強に追われたテスト期間での著しい QOL 低下経験や、多額を投資した再試などの辛い経験があるようだった。入学前に学生生活の苦しい面を知っておくことも重要なかもしれないという意見でまとまった。

<第2ラウンド>「大学生活で印象に残ったこと」

大学生活を振り返り、印象に残っていることについて描画表現した。

- ・テストと卒業研究の時期が重なり、とても忙しい思いをした
- ・ただひたすらにテスト勉強が辛かった
- ・薬局実習2週目から服薬指導を経験した

上記を表現する素晴らしい絵画が生まれた。全体的に大変だった経験が深く記憶に刻み込まれているようだが、実習先での経験に議論が発展していった。その中では、初日から疑義照会を経験したことや ICU での実習があったこと、在宅医療を通して薬のことだけでなく、家庭全体のことを知りえたことなどが印象に残っているようだった。実務実習を経験することで勉強への意欲が高まった経験を持つ旅人も多く、さらに一生勉強し続けることを覚悟したという旅人もおり、とてもよい効果が表れていると感じた。

<第3ラウンド>「私の夢」

概ね就職先の決まっている現時点で、将来像について発表しあった。

- ・病院薬剤師として地域の医療に貢献したい
- ・行政薬剤師として医療費等の問題にも取り組みたい
- ・ドラッグストアで予防に注力したい

上記のような意見が出された。偶然にも旅人4人が異なる形で専門性を発揮していく予定であり、相互に刺激を受けたのではないかと考える。一見異なる各々の将来像の背景には、「社会のために」という共通した思いがあること、そして実務実習を通してその想いを膨らませていったことが窺えた。

総括

とても協力的な旅人が集まり活発に意見が出たため、模造紙をらくがきで埋めることができた。自分と同じ意見、共通の経験をもつ旅人がいることで安心感が得られるとともに、異なる価値観や経験談に触れる刺激は自身の考えを深めるための重要な要素であり、今回

はその刺激を簡単に受けられたのではないだろうか。1つ1つのテーマは短時間であったものの、自分たちが歩んできた薬学教育の全体像をWSの冒頭で振り返ることで、続くSGDでも活発な意見交換ができたのではないかと考える。アイスブレイキングの要素も併せ持つことから、一石三鳥のとても有意義な時間となった。

Ⅱ B班－1

<第1ラウンド>「私がイメージしていた薬学部」

- ・薬について勉強するところだと考えていた。そのため最初の1、2年は薬学と関係ない授業も取らないといけないことに意味を感じられなかった。(時間がもったいないように感じた)。
- ・6年制なのに研究もしっかりやらないといけないことを知らなかった。
全体の印象としては薬学部に入る前のイメージと入った後に体験したことのギャップに辛さを感じるメンバーが多かった。薬剤師の仕事や求められることについてよく知らずに薬学部に入ってしまったことが原因であると考えられ、薬学進学を希望する学生を対象に薬学部について知ってもらう必要があると感じたラウンドだった。

<第2ラウンド>「大学生活で印象に残ったこと」

このラウンドでは、6年間で私生活を含めず大学内の活動で印象に残った場面をA4用紙に絵を書いて、それが何を表しているかをクイズ形式で答えた。

- ・卒業研究をまとめることが大変だったこと
- ・3年後期に6年制か4年制を選ぶシステムの大学であったので、高成績をとり6年制に進むためにテスト勉強が大変だった。
- ・薬局実習中の指導薬剤師の先生が激務だったこと。ただ指導はしっかりと行ってくれたいい先生だったこと。

自分の大学と同じシステムの大学のメンバーがいて、テスト勉強も辛かったが成績争いが原因で学年のピリピリした雰囲気なども辛かったなど共感できる部分が多かった。全体の討論としてはテストや各々の研究内容の話が中心となった。

<第3ラウンド>「私の夢」

- ・大学院に進学して、統計学について学んでいきたい。
- ・地方病院に勤めつつ、病院や薬局に若い人材が勤めに行くような流れを作りたい。
- ・MRとして薬を売り込み、患者さんにより良い薬を届けることで治療に貢献したい。
- ・メーカーで研究開発をしていくが、プライベートも必ず充実させたい。

それぞれが系統の異なる進路であったが、そこに決めた経緯も話していくと互いに共感する部分や予期しない考え方を示したメンバーもいた。一番印象的だったのは、地方の医療について目を向けその実態や意見をしっかりと持っていたメンバーがいたことで、薬剤師の将来についてすでに深く考えていたことに感銘を受けた。

総括

他大学の学生とグループ討論を行うことで、それぞれの考え方や価値観を共有できたので刺激を受けることも多かった。その異なる視点や考え方は各大学で経験や学習することが違ってくることにも起因していると感じた。一方で6年間の薬学部での生活を通じて共感できることも多くあったので仲間意識がすぐに芽生えた。徐々に意見を出しやすい雰囲気

気にもなり、次のセッションにもつながるディスカッションができたと思う。

Ⅱ B 班 - 2

概要

第一部では「私たちの歩み:過去、現在、そして未来」というテーマについて World Café を通して討論を行なった。テーブルマスターを含む4名の小グループで、テーマごとにメンバーを入れ替えて「ラウンド」を行なった。計3回行なったラウンド内容は以下の通り。

<第1ラウンド>「私がイメージしていた薬学部」

どの旅人も入学前は「真面目」なイメージを持っていた。しかし、6年間の薬学部生活を経験してイメージ通りと感じる旅人もいれば、違った（遊んでいた等）と感じた旅人もいた。また「薬剤師資格を得る場所」といったイメージを持つ旅人も多かった。

以上の内容から、通常の4年制大学とは違う資格を取るための学部であるとの結論に至った

<第2ラウンド>「大学生活で印象に残った事」

このラウンドではテーマについて旅人それぞれに A4 用紙 1 枚に絵を書いてもらい、クイズ形式でテーマについて発表を行なった。

4人の旅人（テーブルマスター含）が書いた内容は以下の通り

Mくん 交友関係と進級についてとても意味深な絵

Mさん 大学内部がデザイン優先で分かりにくく迷子になった絵

Sくん 実務実習で患者さんに握手されている絵

Oさん 実務実習で患者さんに患部を見せてもらっている絵

2人は大学生活について、2人は5年時の実務実習についてのイラストを描いていた。他の絵も確認したが、実務実習について書いている学生が多いと感じた。薬学教育の中でも、実務実習が薬剤師になるという意識づけに大きく寄与している印象を受けた。

<第3ラウンド>「私の夢」

このラウンドでは「私の夢」について1人1分発表を行なった。

「薬局で地域貢献がしたい」「災害派遣に取り組んでいきたい」「研究者として新薬開発に努めたい」「病院薬剤師として働き人再教育をしたい」といった夢を語っていた。

どの学生も自分が何をやりたいか、その目標を達成することができる進路を選んでいった。

（ラウンド1より）入学当初は資格を取ることが目的であったが、6年生になった今は資格を取った後について深く考える事ができるよう成長していた。

総括

第一部はアイスブレイクの意味合いも兼ねて設定された内容であったが、どの学生も楽しみつつセッションのテーマに真剣に取り組んでいたことが印象的だった。過去、現在、未来の順番でセッションを行うことで自分のどこが成長したか確認することができ、他の学生がその時（時代）何を考えていたか知ることができた。

これから行うグループワークが非常に有意義になる事を期待させるような討論となった。

第一部では、「私たちの歩み：過去、現在、そして未来」というテーマで World café 形式を用いて討論を行った。3つのテーマごとにメンバーを入れ替え模造紙に自由な落書きを残しながらラウンドを行った。以下に各ラウンドでの討論についてまとめる。

<第1ラウンド>「私がイメージしていた薬学部」

討論内容

- ・理系であるが薬学部は女子が多かった。
- ・薬学部を目指すきっかけになったことは。
- ・素敵なキャンパスライフが送れると思っていた。

など

初回のラウンドであったので自己紹介や自分の大学について多く話した。薬学部のイメージとして多かったのが、思っていたよりも勉強や研究が大変、もっと自分のしたいことが出来ると思っていた、などが挙げられた。また薬学部を希望したきっかけとして多かれ少なかれ、私たちの高校時代に起こった東日本大震災に影響を受けていることがわかった。想像していた以上に薬学部での勉学は大変であったが、メンバーの話からは大変さよりも充実していることを感じた。

<第2ラウンド>「大学生活で印象に残ったこと」

このラウンドでは各自テーマに沿った絵を描き、その内容を他のメンバーがクイズ形式で当てるという方法で行った。

絵の内容

- ・学会への参加
- ・勉強でわからないところは助け合いながら解決する
- ・定期テストは眠気との戦い
- ・勉強→遊び→研究→遊びの繰り返しの学生生活

このラウンドでは、メンバーの研究内容や各大学の学祭の様子について多く話した。印象に残っていることが、勉強で分からない所は学生同士で教え合いをして解決している、他学年同士での勉強会もあるという大学があったことだ。同じ薬学部でも各大学、色が違うということを感じた。

<第3ラウンド>「私の夢」

このラウンドはメンバーが全員女性であったことから将来の女性の働き方について討論した。

討論内容

- ・将来目指す薬剤師像について
- ・認定・専門の資格習得
- ・どういった現場で活躍したいか

メンバー全員の就職先が病院で女性ということで結婚という話題で盛り上がった。薬剤師免許の強みとして女性の社会復帰が容易という意見があった一方で、病院薬剤師として認定や専門の資格を習得してバリバリ活躍したいが、条件として勤続年数があるものは家庭を築きながらだと難しいのではないかと不安を感じている、などが挙げられた。

感想

テーブルマスターとして会話をうまく回せるかどうか不安を感じたが、始まってすぐに

メンバーがお互い打ち解けて私も楽しく会話に参加することができた。同じ薬学生として、今後どの様に活躍していきたいのか同期の意見を聞いて、私にとってとても刺激的だった。様々な環境の話を受けて本当に有意義な時間となった。

Ⅱ C 班 - 2

第一部では「私たちの歩み：過去、現在、そして未来」というテーマで World Café 形式で討論を行った。4名のグループでラウンドごとにメンバーを入れ替え、それぞれラウンドのテーマに沿って気づきや感想を模造紙に記録した。各ラウンドの討論について以下にまとめる。

<第1ラウンド>「私がイメージしていた薬学部」

第1ラウンドでは上記のテーマで、各自の思うことを自由に討論した。討論の中で最も多かった意見として、調剤や処方せん解析などの実務科目を中心に学んでいくイメージがあった、という意見が多かった。また、薬学部の授業科目がほとんど必修科目であり、選択科目が限られていたことや、選択科目の中でも各大学によって異なっていたため、受けて見たかった講義があっても受けることができなかったという意見もあった。さらに、薬学部以外の医療系学部との交流を持つ大学と持たない大学があり、薬学部以外の医療系学部との交流が欲しかったという意見もあった。

<第2ラウンド>「大学生活で印象に残ったこと」

第2ラウンドでは上記のテーマで各自が絵を書き、その絵を見せ合いながらクイズ形式で討論を進めた。絵の内容として、①学会報告でのできごと、②実験中で薬品をこぼした理由、③キャピラリーの作製、④研究室決め、であった。6年生の薬学部では実務実習の経験やサークル活動など印象に残ると考えていたが、4人そろって研究に関することが印象に残っていることが判明した。

<第3ラウンド>「私の夢」

第3ラウンドも上記のテーマで自由に討論をした。4人それぞれの夢として、①大学院へ進学し、研究への道に進むこと、②地元に戻り、結婚して家庭を持つこと、③病院に就職して認定薬剤師や専門薬剤師になること、④同様に病院に就職して認定薬剤師や専門薬剤師になること、であった。それぞれ6年生薬学部を卒業してからの方向性が決まっており、それに従って地元での就職や病院への就職、大学院への進学の理由について意見を聞くことができた。

感想

学んできた環境が全く異なる人達の考えを聞くことができ、自分が当たり前だと思っていた薬剤師像や価値観を見つめ直す良いきっかけとなった。メンバーそれぞれが明確な意見を持ち、発言しながらも、聞き手はそれを素直に受け入れる姿勢や雰囲気があるような柔軟性があったように感じた。刺激を与えあう・受けあうことで成長を感じる有意義な時間となった。

Ⅲ A班－1

第一部では、「私たちの歩み:過去、現在、そして未来」というテーマのもと、World Café形式で全3ラウンドの討論を行った。各ラウンドにはそれぞれ小テーマが与えられ、テーマに関する意見を交換し、気付きや感想を模造紙に自由に記入した。各ラウンドにおける討論内容を以下にまとめる。

<第1ラウンド>「私がイメージしていた薬学部」

- ・研究はしなさそう
- ・勉強ばかりしていそう
- ・まじめな人多そう
- ・部活動やサークルは出来なさそう
- ・単位取るのが大変そう
- ・理系ぽくはなさそう
- ・みんなが薬剤師になるために入る学部

第1ラウンドでは上記のような意見が出た。皆、イメージしていたことが似ており、大体イメージ通りであったという声が上がっていた。逆にイメージと異なっていたことは、就職の進路として薬剤師以外の道を選ぶ人が意外に多かったという意見がでていた。

<第2ラウンド>「大学生活で印象に残ったこと」

第2ラウンドでは、大学生活で印象に残っている場面を絵で表現し、メンバーに見せながらその状況を説明した。

- ・研究室での研究生活や飲み会
- ・病院実習で患者さんと触れ合ったこと
- ・お薬相談窓口で、薬剤師がすごく頼りにされていたこと
- ・必須科目ばかりで皆固定の授業を受けていたこと
- ・普段から勉強熱心な人と追試から本気を出す人の差
- ・平日は勉強、土日はバイト
- ・実習期間が長いこと
- ・テスト期間は自習室の席争奪戦
- ・みんなバラバラで入学し、グループができ、そしてまた分裂する
- ・GDや発表が意外と多かったこと

第2ラウンドでは上記のような意見が出た。特に実習の話題では、話が盛り上がった。薬学生の大学生活は、実習、研究室、学業の印象が強いようだ。

<第3ラウンド>「私の夢」

- ・ドラッグに就職予定の人
楽しめるアイデアを出したら、みんなが幸せになると思うので、将来商品開発したい。老後を楽しみたい。
- ・病院に就職予定の人
お年寄りと話すことが好きなので、病院での知識を活かし、将来薬局に勤め在宅医療に貢献したい。実習で同行させて頂いた在宅医療では、薬を運んでいるだけに感じたので、繋がりを大切にし、その現状を変えたい。

- ・卸に就職予定の人

DI 業務に携わりたい。勉強会を開き MS を教育したい。

- ・MR に就職予定の人

医療従事者間の壁をなくしたい。MR で身につけたスキルを活かし、マーケティングや人事など様々な職種で活躍し、会社や社会に貢献したい。そして、休日は海外旅行に行きたい。

第3ラウンドでは上記のような意見が出た。私たちの班では、私生活より仕事のことについて詳しく討論した。皆、活躍する場が異なり、それぞれ違う方法で患者貢献していこうと考えていた。ここで、多職種連携の大切さを改めて感じた。また、将来違う職種にも就いてみたいと考えている人が多く、自身のキャリアプランをしっかりと描けている印象を受けた。

Ⅲ A 班 - 2

<第1ラウンド>「私がイメージしていた薬学部」

女子が多く、男子の肩身が狭い。物静かな人が多い。ずっと勉強しなくてはならない。6年間の学生生活が長い等、意外にも入学前にはマイナスなイメージを持っていた人が多かった。薬学を学びたい、国家資格を取得したい、患者さんを支える医療人になりたいという思いの裏側にはこのような不安があったことがわかり、自身も共感する部分が多かった。薬剤師は縁の下の力持ちのような存在であり、表立って目立つ職業ではないというイメージからか、薬学部に活発で明るいイメージは無かったようだ。しかし、薬学を学び、病院や薬局、企業、行政で活躍する先輩薬剤師を目にするにつれ、マイナスなイメージは徐々に消えていき、むしろ現在は薬剤師の可能性に期待を膨らませているようであった。

<第2ラウンド>「大学生活で印象に残ったこと」

6年間は長いと思っていたが、あっという間だった。学生団体に所属し、サークル活動や課外活動に打ち込んだ。旅行をたくさんした。趣味を見つけた。恋愛をした等、各々の学生生活を充実したものにしてきたようであった。正課では、卒業研究に没頭したり、実習中に会った指導薬剤師と患者さんの関係性に心を打たれたり、特に「研究」と「実務実習」から日々刺激を受けながら自己研鑽してきたようだ。

<第3ラウンド>「私の夢」

チーム医療において、患者さんからも他の医療スタッフからも信頼される薬剤師になる。指導薬剤師、認定薬剤師、専門薬剤師等のさらなる資格を取得する。薬剤師免許取得後も知識のアップデートをしていく。生涯勉強。友人と薬局を経営する。結婚し、家庭を持つ。家を建てる。車を買う等が挙げられた。その中でもキーワードとなったのが「信頼」という言葉だった。人として信じられる、そして確かな知識を持って問題解決に導く力量を持ち、頼りにされる薬剤師になることが私たちの共通の夢であることを認識した。一方、夢の実現に向けて不安に思うことも挙げられた。それは、特に女性の病院薬剤師における産休・育休制度や子育てをしながらの仕事の両立である。病院によっては、産休・育休制度が確立されておらず、妊娠に伴って仕事を辞めなければならない場合があったり、産休・育休制度を利用して仕事を続けられても、小さい子供が熱を出したら仕事を早退しなければ

ばならず、以前のように働くことが困難になったりする場合をよく耳にする。薬局薬剤師や看護師のように女性が多い職種の場合は、理解が得られやすく、また人数も多いため空いた穴を埋めやすいが、比較的少ない人数で回す病院薬剤師は、そのような対応が困難のように思う。しかし、「私の夢」で薬剤師としてのキャリアアップと同時に結婚や出産が挙げられるように、どちらも私たちの叶えたい夢であることに変わりはない。産休・育休制度の確立、病児保育のできる託児所の設置等を進め、働きやすい環境を整えていく必要があると考えた。

Ⅲ B 班－1

<第1ラウンド>「私がイメージしていた薬学部」

<勉強面>

- ・勉強が大変そうで、学生生活はつまらなそう
医学部に比べたらあまり勉強しなくていいと思っていたけど、入学したら意外と勉強量があった
- ・病院・薬局実習が楽しみだった
- ・4年制のままでよかったのではないかと思っていた（せめて5年制）
- ・頭がいい
- ・卒論大変そう

<就職>

- ・免許がとれる←この意見は4人全員が一致して共感した意見でした
- ・病院で勤めている
- ・薬局で勤めている

<その他>

- ・特に何もイメージはしていなく、入学してから次第に薬学部はこういうものだと知っていった
- ・調剤だけをしているイメージだった
- ・女の子が多い

ここで話が尽きたので、「なぜ薬学部を選択したのか」を話すことが当初のイメージにつながると思い、この点について話し合った。

- ・元々医療に興味があったことと、母親が薬剤師であったことから興味を持った
- ・親戚のおじいちゃんおばあちゃんを笑わせてあげたことがきっかけ。町の薬局や病院で多くのお年寄りの方々に笑わせてあげたいと思った
- ・人を救うことが出来る仕事だと思ったから
- ・国家資格が取れるから
- ・長く働ける仕事に就けるから
- ・治療のほかに、予防にも興味があったから

<第2ラウンド>「大学生活で印象に残ったこと」

- ・学祭
－普段勉強が大変な分、学校行事等のイベントでは、仲間との共同作業に熱が入り、結びつきが強くなった。6年間毎日のように顔を合わせる仲間と行う行事は、他の大学と比べ、より一層深い絆を生むことが出来ることは薬学部の特徴だと思う。一生の大切な

仲間を感じた時間だった。

- ・結婚式会場のアルバイトでの経験
 - －普段「笑顔」の作り方で何度も怒られていた。その後自身で練習を行うことで、お客様から「素敵な笑顔をありがとう」と褒めて頂き、とても嬉しかった経験があった。この経験は薬剤師として患者さんに笑顔で接する点で活かすことが出来ると、自信を持つことが出来た。
- ・所属研究室先を決定するときのこと
 - －所属研究室の決定は、成績で3ブロックに分けた後はじゃんけんで行われ、負けて希望する研究室に行けなかった人は泣いて悲しみ、勝った人は飛び跳ねて喜んでいて。そのような光景が今でも忘れられない。
- ・OSCE
 - 今までで最も緊張したから。今終わってみるととても簡単なことだったけれど、本番はとて緊張した。

一通り全員が話し終え、話題はバイトの話に。それぞれ何のバイトやっていたかを話した。

- ・歯科助手－患者や医師と接する仕事だったので、臨床に生きるスキルを学ぶことが出来た
- ・学童塾の講師－普段勉強が大変な中で、子供に会うことが癒しとなっていた

結論、日々目まぐるしい勉強の中で、アルバイトは息抜きになるという意見が多かった。

次に研究室の話に。何の研究をしているのかを話した。

- ・地元の名産のミカンの皮を使ったサプリメントの開発。健康寿命を延ばすために
- ・外国人観光客に向けた服薬指導のアプリ開発。薬局で模擬使用されている
- ・癌性疼痛に関する新薬開発

<第3ラウンド>「私の夢」

- ・「すごい薬剤師」－病院実習で提案をした際に「それは薬剤師が言うことではない」と言われた経験があった。それでは誰なら言っているのかと考えた→「発言をして、納得してもらえる薬剤師」になるためにDrに進み、知識を蓄えたいうえで病院薬剤師となり、活躍したい。
- ・病院薬剤師となり、「この人の為に何が出来るか」をしっかりと考えられる薬剤師になりたい。その人に合った治療を考えられる薬剤師を目指す。必要があれば学位も取得したい。
- ・故郷を離れて病院薬剤師になる。自身のスキルを上げ、貢献するために故郷東北から沖縄に飛び立ち、専門性の高い薬剤師の方々の中で働く。
- ・MRとして、地域医療格差をなくしたい。行く行くはプロダクトマーケティング部に異動し、製品を育て、世界に広める仕事がしたい。
- ・公私ともに充実した生活を送ること
- ・海外旅行に沢山行きたい
- ・良い旦那になりたい

Ⅲ B 班 - 2

第一部では「私たちの歩み：過去、現在、そして未来」をテーマに、World Café 形式でⅢチームの学生と今日までの学生生活を振り返り、各々が学んだ・感じたことを共有した。全体で3ラウンド行い、ラウンド毎で与えられたテーマについて討論を交わした。以下に各テーマについての討論の内容をまとめた。

<第1ラウンド>「私がイメージしていた薬学部」

第1ラウンドでは、上記テーマについて、自己紹介を交えながら各々が持っていた薬学部のイメージを共有した。討論者の意見として、「女子学生が多い」「勉強が難しく、授業が多い」「6年制学科はあまり研究しない」「入学当時は何を学ぶのかハッキリ理解できていない」という意見が挙げられた。またそのイメージと5年間の学生生活とのギャップについて各大学のカリキュラムの違いを踏まえた討論を行い、イメージとのギャップが大きかったものとして「キャンパスライフが充実していない（アルバイト、遊びなどを行う時間がない）」

「研究が忙しい」「男子学生が多い」などの意見が挙げられた。

<第2ラウンド>「大学生活で印象に残ったこと」

第2ラウンドでは、上記テーマについて各々の学生生活で印象に残った内容を絵で表現した。描いた絵から討論者が表現したい内容を読み取り正解を当てるというゲーム感覚で討論を行えたので緊張も解れ賑やかに交流を深めることが出来た。この斑の討論者は、実務実習で体験した衝撃的な出来事、学生生活の中で取り組んだサークル活動・趣味、研究室生活で実験が成功した体験、学生から薬剤師になる際への不安を感じた体験について絵で表現した。

<第3ラウンド>「私の夢」

第3ラウンドでは、上記テーマについて、自分の志す職種の業務を通して成し遂げたい自分の夢について討論を行った。学生個人の就職先に関係するものが多く、ドラッグストアでの勤務から将来的に商品開発を行いたい、キャリアアップを経て新人教育やマネジメントに携わりたい、在宅医療を通して患者さんにより良い医療を提供したいという意見が挙げられた。貯金が出来れば一人暮らしもしたい、不動産経営も行いたいといった、プライベートな夢についても討論することが出来た。

総括

このワークショップに参加した薬学生の中でも就職先が病院・調剤薬局・ドラッグストアと別れており、更にMRや研究職、公務員志望、進学といった様々な進路がある中で思い描く夢は個性的であり、そこでの討論を受けて各々が刺激を感じていた。

このように第一部では学生同士の交流を深め、様々な意見が飛び交う自由度の高い討論が行えた。また今回のワークショップに参加した学生は気さくな方が多く進行もスムーズに行えたのでとても有意義な時間を過ごせた。初対面で緊張している雰囲気から気兼ねなく会話できるように交流を深めることが出来たので、後に続く第二部、第三部のセッションへの良い導入になった。

Ⅲ C 班 - 1

第一部では、「私たちの歩み：過去、現在、そして未来」というテーマで World Café 形式で討論を行った。4名のグループでラウンドごとにメンバーを入れ替え、経験や意見を共有した。以下に各ラウンドの討論内容を示す。

<第1ラウンド>「私がイメージしていた薬学部」

- ・憧れのキャンパスライフ
- ・派手な実験が出来るところ
- ・泊まり込みで実験三昧
- ・勉強が大変そう

第一ラウンドでは上記のような意見が出た。入学前の思い描いていたイメージと一致することもあれば、ギャップに戸惑うことも多くあったように見受けられた。

<第2ラウンド>「大学生活で印象に残ったこと」

- ・情報収集力が何より大事だった
- ・漢方試飲会、健康フェアなどのイベントで活躍できた
- ・自分を売り込み、新聞に掲載された
- ・試験終わりのギョーザパーティー
- ・一包化できる日本に感動

第2ラウンドでは、各々のイラストを用いた。主に、苦楽を共にした仲間との日常が描かれていた。一言でまとめると、知識を得て実習で患者と向き合い、自分の未熟さ、情報の重要性、客観的視野の拡大が、学生生活を通して深く記憶として残っていた。

<第3ラウンド>「私の夢」

- ・アンメット・メディカル・ニーズに取り組み、一人でも多くの QOL 向上に貢献する
- ・選ばれる薬剤師、需要のある薬剤師になる
- ・コミュニケーション能力、知識、技能を高め、信頼を獲得する
- ・AI と共存ではなく共生して、薬剤師の存在価値を向上させる

第3ラウンドでは、夢について意見交換した。各々に専門職業人として目標があるが、一貫として「患者に寄り添い、薬物治療に責任を負う医療人になること」であると認識した。

総括

各大学のカリキュラムポリシーによって経路は違えども、これから薬学に精通する自覚は一致していた。また、一人ひとりの見解が異なり、興味深くテーマに取り組むことができた。盛んな意見交換のおかげで、互いに打ち解けやすく有意義な時間になった。

Ⅲ C 班 - 2

第一部では World Cafe 形式で「私たちの歩み」とテーマに全3ラウンドの討論を行った。今回は3名または4名のグループでラウンドごとにメンバーを入れ替え、気づいたこと・印象に残ったことなどを模造紙に各々書き出した。各ラウンドの討議については以下にまとめる。

<第1ラウンド>「私がイメージしていた薬学部」

- ・女子が多い
- ・研究期間がもっと長い
- ・研究期間がもっと短い
- ・自由な時間が多い
- ・教授の講義はその人の専門分野を教えていると思っていた
- ・ストレートで卒業できると思っていた
- ・基礎科目(物理・化学・生物)があまりないと思っていた(特に物理)
- ・他学科・他大学との関わりがもっと多いと思っていた(単科大学では特に思われていた)
- ・泊まり込みで研究することがあると思っていた

第1ラウンドでは上記のような意見が出た。実験期間に関しては、カリキュラムの組み方や研究室への配属時期、国家試験対策を始めた時期により意見が異なっていることが分かった。また、予備校の講義があったり、参考書を何冊も買うことになるとは思わなかったという意見もあった。さらに一般の大学生のイメージが文系の学生に寄っていたために、講義の空き時間がないなどのギャップがあったことが分かった。

<第2ラウンド>「大学生活で印象に残ったこと」

- ・山に入って生薬や樹液を採取したこと
- ・暑い日の講習中（正式な講義ではない）に教授も含めてみんなでアイスを食べながら講義を行ったこと
- ・製薬企業の倉庫が24時間自動でフル稼働していたこと

第2ラウンドは自分の印象に残っていることを絵に描いてクイズ形式で解答してもらう方法ですすめた。インターンシップで製薬企業を見に行った人は何階もある倉庫から自動で原薬が運び出され薬品が作られているのが印象的だったと言っていた。また、山に入った人は、薬学部でもフィールドワークを行うことに驚いていた。

<第3ラウンド>「私の夢」

- ・調剤薬局：自分が得た知識を患者さんに還元できるようになりたい
- ・調剤薬局：緩和医療を充実させたい
- ・病院：医療従事者内での薬剤師の位置を変化させたい
- ・企業(研究)：何年か研究職で働いたら、薬剤師免許を生かして管理職などに就きたい

第3ラウンドでは夢について語り合った。実務実習など、現場の医療従事者を見て改めて考えたという意見もあった。目指す職種は違えど自分が持つ知識・技能を用いて患者さんに還元したいという意識を感じた。

全体を通して

第一部ということで、初対面の人とうまく話せるか心配だったがやってみるとそこまで心配する必要はなかったと感じた。意見を聞きだそうとしなくても何かしらの意見に対して自分の意見を言える人が多いという印象を受けた。

今回、テーブルマスターとして様々な意見を聞いて、自分なりの薬剤師観が見つめなおせたと思う。各大学、各人の経験、価値観を聞いて自分だけでは思っていたらなかった視点がいくつもあることに気づけた。これは薬剤師として働いていくうえでとてもいい経験になったと思う。